

- 1 単元名 わたしたちの福井県 2 県内の特色ある地いきのくらし
 小単元名 (1) 自然を生かすまち 白山・坂口地区

2 小単元の目標

- ・さぎ草や絶滅危惧種に関心をもち、地域の自然を生かした取組について意欲的に調べたり話し合ったりしようとしている。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・地域の発展のために、人々が工夫や努力をしながら自然を生かした活動を行っていることを考えることができる。(社会的な思考・判断・表現)
- ・様々な資料を活用して、さぎ草を守る活動や絶滅危惧種について内容を整理しながら調べることができる。(観察・資料活用の技能)
- ・白山・坂口地区の様子や地域の自然を生かした取組について理解することができる。(社会的事象についての知識・理解)

3 小単元について

本単元は、福井県の様子について地図や資料を活用したり、白地図にまとめたりして学習を進めていく。その中で県の地形や産業などの概要や分布などに見られる特色をとらえ、地域の自然環境や、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域について具体的に調べることを学習内容としている。その中で、そこでくらししている人々のくらしに見られる特色やよさについて具体的に考えさせることができる。そこで、豊かな自然環境を生かす地域として越前市白山・坂口地区を、歴史や文化を大切にしている地域として小浜市を、伝統的な工業など地場産業の盛んな地域として越前市五箇地区の3カ所を取り上げて学習する。なお、越前市五箇地区の学習は、4月に学習を行い、5月上旬の校外学習では、製紙工場見学と紙漉体験を行った。

本小単元では、自然を生かすまちづくりをしている越前市白山・坂口地区を取り上げる。さぎ草の特色や白山地区安養寺町の土地の様子を調べた後、そこに住む人々が、絶滅が心配されているさぎ草をどのように蘇らせたのか、守り育てるためにどのような工夫や努力をしてきたのかについて学習する。その後、さぎ草以外のその他の自然を守る取り組みについて学習する。

白山地区安養寺町では、さぎ草をまちの宝として再生させるために、さぎ草王国を設立し、さぎ草を守る活動を地域が一体となって行っている。さぎ草は、全国的に数が減っており、絶滅が心配されている植物の一つである。このさぎ草のことを広く知ってもらうために、さぎ草展を毎年夏に実施したり、「安養寺さぎそう物語」という創作絵本を作ったりするなど多様な活動に取り組んでいる。この学習を通して、地域の人々が、地域の自然を豊かにしようと努力しながらまちづくりをしていることを理解することができる。

また、この白山・坂口地区は、アベサンショウウオやハッチョウトンボなど希少な生物が生息している地域でもある。それを守るために、水辺の環境を整えたり、県内外から人を呼んでエコキャンプや生き物観察会を行ったりするなどの活動も行っている。その他に、現在、白山・坂口地区では、絶滅危惧種の一つであるコウノトリが舞う里づくりに力を入れており、コウノトリのえさ場となる生き物を育むための里山の整備やコウノトリを呼び戻すために農薬をまかない農法を行うなど精力的に活動している。その活動は、地元の福井新聞でも大きく取り上げられているが、副読本「きょう土の生活」ではあまり触れられていない。白山・坂口地区で現在どのようなことが行われているかやこの地域の人々が今、どのような願いや思いをもっているのかを理解するために、発展的な内容として本小単元にコウノトリを呼び戻す農法の学習を取り入れる。そうすることで、社会の動きに目を向けることができると考える。

このように、地域の人々が自然を生かしながら、ふるさとに対する強い思いや願いをもって活動していることを理解することのできる小単元である。

4 児童について

男子20名、女子17名、計37名のクラスである。素直で明るい児童が多く、どの学習でも積極的に取り組む様子が見られる。挙手が多く、活発に意見を発表する児童が多い。

学級活動や国語、帰りの会の時間に、毎月の生活目標を何にするかやクラスでどのような遊びをするかなど、様々な話題で話し合い活動を行ってきた。班で話し合うときには、活発に意見を言うことができる児童が多い。また、朝の会でのスピーチでは、スピーチが終わった後で聞き手が質問をする。その際、質問して答えてもらうだけではなく、さらに質問したり感想を言ったりする一往復半のやり取りをしている児童が多い。

児童の実態を調査するため、以下のようなアンケートを実施した。

アンケート（10月20日実施）

1 社会は好きですか。

好き 13人 少し好き 20人 少し嫌い 5人 嫌い 2人

(わけ)

好き・少し好き…見学に行けるから、歴史やまちのことが分かるから、など

嫌い・少し嫌い…ノートに書くのが大変だから、まとめるのがきらいだから、など

2 社会で、今まで学習した内容で一番心に残っているのは何ですか。

越前和紙（23人）…和紙を自分で作ったこと

ごみ（3人）…総合でごみのことを調べたこと、クリーンセンターの見学

水（3人）…浄水場で地下水を飲んだらおいしかったこと

浦見運河（2人）…行方久兵衛さんのあきらめない気持ちがすごいと思ったこと

消防（6人）…火災報知器などを調べるのが勉強になったこと など

3 社会の学習で、どんな学習が好きですか。

	好き・少し好き(人)	嫌い・少し嫌い(人)
疑問に感じたことやさらに調べてみたいことを出し合う学習	28	9
予想を立てて、みんなで話し合う学習	30	7
副読本「きょう土の生活」や資料などを読んで調べる学習	26	11
グラフや表を見て、分かったことを書く学習	27	10
見に行ったり、体験したりする学習	35	2

4 あなたは、絶滅危惧種を知っていますか。

知っている 24人（ヤンバルクイナ5人、コウノトリ1人など）

知らない 13人

5 今、越前市でコウノトリをよびもどす活動をしていることを知っていますか。

知っている 18人 知らない 19人

6-1) (5で、知っていると答えた人のみ回答) どんな方法で知りましたか。

テレビで 8人 新聞で 9人 その他 1人 (聞いたことがある)

6-2) コウノトリをよびもどす活動について知っていることがあれば書いてください。

・コウノトリのえさを用意したり休む場所を作っていること

・子どもたちが巣塔を作ったことや大人がコウノトリについて相談していること

アンケートの結果から、ほとんどの児童は社会が好きであることが分かる。その理由として

社会科見学に行けるからという理由が最も多い。見学で見たり聞いたりしたことや体験したことが印象に残りやすく、それが社会は楽しいという思いにつながっていると考えられる。今まで、クリーンセンターや消防署など様々な場所に社会科見学に行き、学習を深めてきた。施設の方の説明を聞いてメモを取る時、プリントの裏も使って詳細に書く児童や、越前和紙のペン立てを自主的に家から持ってくる児童など、意欲が高い児童が多い。全単元で社会科見学に行くことは時間的に不可能であるため、本小単元では、写真を始めとした資料を提示したり、班で調べる学習を取り入れたりして興味・関心を高めていく。

社会では、問題解決型学習を取り入れている。予想を書く際、一つの課題に対してたくさんの予想を書くことができる児童がいる一方で、自分の考えを表すことに抵抗を感じている児童もいる。また、資料を調べたりグラフや表を読み取ったりする学習も嫌いと感じる児童が多い。そこで、予想や考えを書く場面では、一人一つ書けるように支援していきたい。資料やグラフを読み取る活動では、読み取る視点を与えて児童の苦手意識を和らげるようにしたい。

本小単元の中で扱う絶滅危惧種について知っている児童は、約3分の2である。本学級の児童は、1学期の総合的な学習の時間で環境について調べ、発表会を行っている。その時に、動物の絶滅危惧種や外来生物について調べて発表した児童がおり、絶滅危惧種のことを聞いたことがある児童が多くなったと考えられる。

本時で扱うコウノトリを呼び戻す農法を知っているのは、半数であり、そのうち内容を知っている児童はわずかであった。夏休みには、環境について書かれた新聞記事を切り抜き、感想を書かせた。その際、本時で扱うコウノトリについての新聞記事を集めた児童がおり、本小単元に高い関心を示すものと期待している。また、3年時の総合的な学習では、田植えや稲刈りを体験している。その時の体験を思い出しながら、無農薬の水田との違いを考えると考えられる。

5 指導について

本校の研究主題は、「自ら学び、つながりながら高め合う子どもの育成」である。これを受け、教材とのつながり、友達とのつながり、社会の動きとのつながりの三つを大切にしながら取り組んでいきたい。そこで、以下のような手立てを考えた。

(1) 教材とつながるために

①問題解決型学習

授業では、問題解決型学習を取り入れて学習を行っている。「? (課題)」「予想」「調べよう」「まとめ」という流れに基づき学習を進めている。本小単元でも、この問題解決型学習の流れを踏まえて展開していく。

「?」と「予想」では、出された課題に対しての予想を書く。予想は、間違っても良いことを伝えておく。自分なりに答えは何だろうと考える中で、課題を自分の問題としてとらえることができると考える。さぎ草を守り育てるために何をしているのかという課題に対して、「調べよう」でどんなことが分かるのか見通しをもたせた上で、調べ学習に取り組ませていきたい。

本時では、白山・坂口地区全体における無農薬の水田を示したVTRを視聴し、その少なさに気付かせる。コウノトリを守ろうと地域全体が努力しているはずなのに、無農薬の水田が増えていないのはなぜだろうという問いかけをすることで、次の「調べよう」の活動に意欲的に取り組めるようにしたい。このとき、どんな目的で農薬をまくのかを考えて予想を発表することができるように支援していきたい。予想を通して、児童の気付き、発想から授業を進め、どうしてだろう、調べたいという意欲を高めたい。

「調べよう」では、農薬をまいた水田と農薬をまかない水田の2枚の写真を提示し、違いを見つける活動を行う。その際、調べ学習や資料の読み取りを苦手と感じる児童がいるため、班で協力して見つけられるようにする。そうすることで、友達同士で教え合うことができる。また、資料を全部提示するのではなく、随時、教師から提示していく。資料一つ一つをじっくり読み取らせて、分かりにくいところを補足説明しながら授業を進め、児童が資料の内容を理解できるようにしたい。

「まとめ」では、自分が農家だったら農薬をまくか、まかないかについて自分の意志を

決定する活動を取り入れる。本時の導入でも、農薬をまくか、まかないかを児童に尋ねる。前時までの学習で、農薬をまくなるとんでもないと考えた児童がほとんどだと予想される。前段階の「調べよう」で、無農薬の水田は、収穫量が約半分に減ることや雑草を取るの大変で手間がかかることなどマイナスの情報を知らせ、揺さぶりをかけて葛藤させる。その後、意思決定の場面になるので、どのように考えて自分の意志を決めたのか、理由もつけて発表させたい。迷ってしまい何を書けばよいか分からない児童のために、農薬をまく、まかないの二つの選択肢だけではなく、農薬を少しだけまく、農薬を全くまかない水田を一つだけ作るなど、いくつかの選択肢を準備しておく。そうすることで、児童が考えをスムーズに書けるようにしたい。その後、新聞記事を読み、地域の人も迷っているのだということを知らせ、自然を生かしたまちづくりをするために努力していることを感じさせたい。

②視聴覚教材や資料などの利用

国語や社会では、絵や写真等を用い、視覚的に学習内容をとらえられるようにしている。本小単元の導入では、グーグルアースを使い、山に囲まれていることや田畑が多いことなど白山・坂口地区の土地の様子に気付かせるようにしたい。アニメーションで地図を動かすことができるため、意欲的に学習に取り組むことができると考える。

白山・坂口地区の希少な生物を調べる時は、福井県安全環境部環境政策課発行のエコワークブックを用いる。この冊子には、一般的な環境問題だけでなく福井県に生息している希少な生物についても詳しく書かれている。そして、紙芝居「とんだとんだ！コウノトリ（童心社）」を読み聞かせる。これは、今年8月に発行されたもので、昭和45年白山・坂口地区にくちばしの折れたコウノトリが舞い降りてから現在までの活動が描かれている。読み聞かせることで学習がさらに深まり、コウノトリを身近に感じることができる。そして、昭和45年から今までの長い間、地元の人がコウノトリを守ろうと努力してきた熱意を感じ取らせたい。

(2) 友達とつながるために

中学年の聞く・話すの目標は、「まなざしで聞く」「最後までしっかり聞く」「場に応じた声の大きさで話す」「順序だてて話す」の四つである。

今まで様々な話題で話し合い活動を取り入れてきた。全体だけで話し合いをしようとする、発表するのは数名の児童に限られてしまうため、班で話し合ってから全体での話し合いを行うようにしている。良い考えをもっていても発表することが苦手な児童がいるので、班で意見を言いやすくするために、自分の意見と理由を書かせ、明確に自分の考えをもたせてから話し合わせてきた。そうすることで、より良い意見が練られ、全体の話し合いが活性化すると考えるためである。

本時でも、同様の活動を取り入れたい。水田の写真を見比べる活動では、班で話し合うことで会話が生まれ、いろいろな視点で写真を見ることができ、雑草取りに手間がかかることや収穫量の少ないことなどに気付くことができると考える。

また、自分が農家だったら農薬をまくか、まかないか話し合う活動では、これまでの学習で得た情報をもとに当事者の立場に立って意思決定する場を設定する。ここでは、ディベートのように意見を戦わせるのではなく、互いの意見に賛同や質問をさせながら自分の考えを深めていき、農家の人々の思いに共感させる。活発に意見を交換して他者の考えの良さに気付いたり、自分の考えを積極的に伝えたりする中でつながり合うことができるのではないかと考える。

(3) 社会の動きとつながるために

①新聞記事の活用

本小単元では、現在白山・坂口地区で起きていることに目を向けさせるために、新聞記事を用いた授業を行いたい。今年8月16日付福井新聞に掲載された、さぎ草の展示会や、コウノトリのことを伝える新聞記事を使用する。ここでは、内容を理解するために新聞の要約を行う。その時に、いつ・どこで・だれが・何をした・なぜ・どのようにの5W1Hに線を引いておき、大事な情報を書き抜くことができるようにしたい。

コウノトリを呼び戻す活動は、2009年より福井新聞で特集記事がたびたび生まれ、

広く県民に知れ渡るようになった。本時では、今年6月4日付「みらい・つなぐ・ふくい」の記事を抜粋して取り扱う。4年生にとって未習の漢字や難語句が多く、新聞記事そのまま見せても内容を理解することは難しいと予想されるため、写真を見せたり記事の内容を易しい言葉に置き換えたりして、新聞記事の内容を分かりやすく伝えられるようにしたい。

②ニュース番組の活用

本時では、NHKのニュース「ニュースザウルスふくい」（7月21日放送）を視聴する。この番組には、白山・坂口地区全体の水田に対する無農薬の水田を示した地図が出てくる。この地図を示して、問題提起を行う。また、この番組では、無農薬の水田の映像もある。映像で見ることで、より一層農薬をまいた水田との違いを理解しやすいと考えられる。3年時に体験した田植えのことを思い出させながら、無農薬の水田と農薬をまいた水田の写真と比較する活動にスムーズに入れるようにしたい。その後の話し合いで、雑草を取ったり収穫量が少なくなったりする農家の苦勞に迫れるようにしたい。

6 指導計画（5時間配当）

時	学習内容	ねらい	関	思	技	知	評価規準
1	さぎ草について知り、さぎ草を蘇らせた白山地区安養寺の土地の様子をとらえる。	白山地区安養寺町の人々が、さぎ草を蘇らせたことに関心を持ち、グーグルアースで、その土地の様子をつかむことができる。	◎			○	(関)さぎ草について関心をもつことができる。 (知)さぎ草を蘇らせた安養寺町の様子をつかむことができる。
2	白山地区安養寺町の人々が、どのようにしてさぎ草を守り育てているのか新聞記事で調べる。	白山地区安養寺町の人々はさぎ草をよみがえらせ守り育てるために、どのような工夫や努力をしているのかを理解することができる。		◎	○		(思)安養寺の人々の努力についてさぎ草王国の活動と関連付けて考えることができる。 (技)さぎ草を守る活動について内容を整理しながら調べることができる。
3	エコワークブックを使い、白山・坂口地区の生き物やそれを守り育てるための取組について調べる。	白山・坂口地区に住む生き物や地域の自然を生かした取り組みについて調べることができる。	○		◎		(関)地域の自然を生かした取組について意欲的に調べようとしている。 (技)絶滅危惧種について必要な情報を取り出しながら調べることができる。
4	コウノトリを呼び戻すためにどんなことに気を付けているか考える。	コウノトリを呼び戻そうとしている白山・坂口地区の人々の取組について調べ、地域の発展に力を合わせて努力をしていることを考えることができる。		○		◎	(思)コウノトリを呼び戻すために努力していることを考えることができる。 (知)地域の自然を生かした取組について理解することができる。
5 本時	無農薬の水田が増えていかない理由や地域の人々の思いや願いを考える。	無農薬の水田と農薬をまいた水田のどちらを選択するか考えることを通して、コウノトリに対する白山・坂口地区の人々の思いや願いに気付くことができる。	○	◎			(関)無農薬の水田が増えていかない理由を積極的に話し合うことができる。 (思)農家の立場になってどちらの水田を作るか考えることができる。

7 本時の目標

- ・無農薬の水田と農薬をまいた水田のどちらを選択するか考えることを通して，コウノトリに対する白山・坂口地区の人々の思いや願いに気付くことができる。

8 準備物

ビデオ，無農薬の水田と農薬をまいた水田の比較資料，水田の写真2枚，新聞記事

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支援（・）と評価（☆）
<p>○白山・坂口地区の人々は，コウノトリを呼び戻すためにどんなことをしているか思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コウノトリのえさ場を作った。 ・農薬をまかない田んぼづくりをしている。 ・コウノトリが巣を作れるように巣塔を作った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区をあげて生き物を守ろうと取組をしていることを写真で確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分が農家だったら，無農薬の田んぼと農薬をまいた田んぼのどちらを選びますか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が白山・坂口地区の農家だったらどうするか聞く。
<p>○VTRを見て，無農薬の水田が少ない理由を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草取りが大変だから。 ・虫がついたり病気になったりしてうまく育たないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作地全体に対する無農薬の田んぼがどれくらいか色分けした画面で止め，無農薬の水田はまだまだ少ないことを知らせる。
<p>○農薬をまいた水田と農薬をまかない水田の写真を比べて違いを見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無農薬の田んぼは，一株の本数が少ないけど，農薬をまいた田んぼは，一株の本数が多い。 ・無農薬の田んぼは，雑草が多い。 ・取れる米の量が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに写真を配り，班で協力しながら違いを見つけられるようにする。 <p>☆積極的に話し合っているか。 (観察…関)</p>
<p>○資料を基に無農薬の水田の少ない理由について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無農薬の田んぼは，草取りの回数が多く，草取りが大変だから。 ・無農薬の田んぼは農薬をまいた田んぼと比べて収穫量が半分しかないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の気付きを基に補足説明をする。補足するための資料を適宜提示する。 ・収穫量の違い ・草取りの時間，回数
<p>○自分が農家だったらどうするか，考えとその理由を書き話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農薬をまかない。大変かもしれないけど，コウノトリが住む里にしたいから。 ・少しだけまく。ちょっとでも協力したいから。 ・農薬をまく。世話が大変なのに少ししか取れないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再度，自分が農家だったらどちらをやりたいか聞く。 <p>☆自分なりの考えとそう考えた理由を書くことができたか。 (ワークシート…思)</p>

○白山・坂口地区の人々の思いや願いを知る。

- ・コウノトリを呼び戻す農法に取り組む農家の数を示したグラフを示す。
- ・福井新聞「みらい・つなぐ・ふくい」（今年6月4日）特集記事の抜粋を読み、農薬をまくかまかないか地域の人も迷っていることを伝える。地元の団体が熱意をもって少しずつ無農薬の水田を増やしてきたことや減農薬の水田に切り替えた農家がいることを伝える。

越前市白山・坂口地区について

この地域は、水が清くアベサンショウウオやハッチョウトンボ、メダカ、ゲンゴロウなど稀少な生物が住んでいる。昭和45年12月に絶滅の危機に瀕していた一羽のコウノトリが飛来した。くちばしが折れエサをとることができずに衰弱していたため、地元や小学校児童がエサを集めて与えるなど世話をを行い、「コウちゃん」の名で親しまれた。しかし、日増しに弱ってきたため、翌昭和46年2月に保護され兵庫県豊岡市にある人工飼育場に移送され「武生」と名付けられた。平成17年6月コウノトリ「武生」は、34年間余り生き続け国内最長飼育記録を打ちたてた。生存中には、1羽の子と4羽の孫を残している。

豊岡で行われているコウノトリ野生復帰の動きを受け、もう一度コウノトリを呼び戻す動きが活発化。コウノトリが舞い降りるような豊かな環境を取り戻したいと、「コウノトリ呼び戻す農法」と名付けた環境創造型農業を推進し、豊岡にも視察や研修に訪れながら地域づくりを進めてきた。

今年8月には坂口地区にコウノトリが1羽飛来し、「えっちゃん」と名付けられ話題となった。